

評価項目	評価員からの意見	今後の対応
1 学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の意見を反映させる形で組織目標の設定がされていることで、目標の理解、共有が十分されており、全員で課題解決に取り組まれている。 ・本委員会を含めて、例年の取り組みが恒例行事のように形骸化しないようにする工夫も必要である。 ・評価内容については対応されていると判断した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の組織目標については、毎年、年度当初に前年度の課題から、取り組みを明確化し教職員間で共有しているが、さらにそれぞれの役割の中での課題・取り組みも吸い上げ、具体的な取り組みに繋げていく。引き続き、風通しのよい組織運営を図り、学生の意見も取り入れながら、組織一丸となり課題解決に取り組んでいきたい。 ・今後も継続的に評価しながら、改善・向上に取り組んでいく。
2 学科運営	<ul style="list-style-type: none"> ・実習連絡会議、調整会議が頻回に行われ、臨床との連携によく努力されている。 ・実習施設との連携をしっかりとられており、問題ない。 ・原級留置学生への対応については、学生への混乱等を招くことがないように予め確認・整理をしながら取り組まれない。 ・学生側によるアンケートの実施は、教員の評価にもつながるため、さらに良い授業へと発展出来て良い取り組みと思う。しかし受けられる側の教員の立場を考えると、評価内容によってはつらい思いをされるのではと危惧する。 ・教職員の方々の真摯で誠実な取り組みが伝わりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き実習施設と連携の強化を図り、より良い実習環境の調整に努めていく。 ・今年度の一年生原級留置者3名については、旧カリキュラムから新カリキュラムへの移行について、当該学生と保護者に説明し、必要な単位修得を問題なく進めている。この先2年次・3年次の原級留置者の可能性も踏まえ、今年度中に2年次・3年次の旧カリキュラムから新カリキュラムへの移行についても検討を進め、準備しておく。 ・学生アンケートについては時として辛辣な意見もあるが、教員は真摯に受け止め、可能な範囲での改善策を検討し、次年度に活かすようにしていく。
3 入学・卒業対策	<ul style="list-style-type: none"> ・入学生の確保、卒業後の支援については、どの学校も課題であるが、社会の状況に合わせて、様々な方法、対策を工夫されている。 ・コロナの状況を踏まえながら、対応されている。 ・人材確保への積極的な取り組みとともに、貴学の魅力(職員との距離の近さ)をPRできており、学生も実感していると思う。 ・卒業生のフォローを引き続きお願いしたい。 ・卒業生に対するフォローの充実を望みますが、どこまで学校側が責任をもってフォローするのか線引きがあるか。在学中の学生へ手厚く対応することで、卒業後は学生本人が自立してもらえることを期待したい。 ・卒業生交流会は、できるだけ多くの卒業生が参加できるよう、就職先への働きかけを今後もお願いします。 ・臨床で継続が難しい人も、個人に合った職場を探すためにナースセンターを紹介してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きコロナ禍でもできる方法を工夫しながら、入学生の確保及び卒業生の支援を実施していく。 ・卒業生交流会については、今年度は各就職先の看護部に参加の働きかけをした。更に多治見病院には各師長に参加させていただけるようお願いをした。また、卒業生にはメールで数回に渡り参加を呼び掛けたり、病院内で直接声をかけた。8月26日に開催し、参加者は昨年度4名(12%)から、今年度9名(38%)へ増加した。次年度も引き続き働きかけていきたい。 ・卒業生が進路相談に来た場合はナースセンターを紹介していく。
4 学生生活への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用した技術演習が行われ、繰り返し映像を確認しながら練習できている。上手くタブレットを活用していると感じた。 ・全教員で気を配り、面談等きめ細やかな対応がされていることは良い取り組みと判断できるが、心の不安定な学生が増えている一方で、カウンセリング利用者数減少や、学習・進路に悩む学生の増加など、対応を更に検討されたい。 ・休学や退学に至るプロセスとその対応が重要だとは思いますが、学生の生活に入り込まないといけないので、教員の方々の苦勞を察します。 ・先輩と語る会の開催時に、ナースセンターに依頼してもらえば就職の状況等の説明ができるので活用してほしい。日本看護協会のDVDの活用も、卒業後をイメージするのに効果的である。 ・社会人となる心構えを持たせるようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き全教員で学生一人一人に気を配りながら声掛けを行い、必要時はカウンセリングを勧めていく。またカウンセリングを利用しやすくするために、相談室前のボードに開室予定表を設置し、予約状況が一目でわかり、さらにチェック方式で予約を入れやすいよう環境を整えた。 ・学習・進路に悩む学生の分析を行い、入学試験や指導方法のあり方に繋げていきたい。 ・先輩と語る会の時のナースセンターの活用を検討していく。 ・社会人基礎力を高められるよう、新カリキュラムでは1年次と3年次に「生涯学習入門」を科目立てした。その中のボランティア活動では、今年度1年生が、自分でボランティア先を選択・交渉し、実施した。この学びは主体的に取り組む姿勢に繋げることが出来たと考える。

5 教職員の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響はあったが、授業評価やカリキュラム検討による全体の質向上と授業参観、授業研究、ICTを活用した授業構築への取り組みにより、個人のスキルアップが積極的に図られている。今後も継続、強化されることを期待したい。 ・教員の育成については研修参加などでスキルアップされている。学生の学習到達度のように教員についての到達度(評価指標)はありますか。経験により差はあると思うがあれば教えていただきたい。 ・教員間での授業参観など、主体的に研鑽されている。 ・現代の若者は自分がどれだけ成長したかわからないし、自分で認められない為、それを引き出し気づかせる、コーチング力が必要である。 ・学生とのコミュニケーションスキルを支援者は身につけていく必要があると感じた。 ・学生のカリキュラム評価によると、卒業時はそれなりに学んだ達成感があるが、卒業1年目になると自信喪失している印象がある。学校で学んだことを臨床に結び付ける取り組みが大切。自己肯定感を高める指導方法にも課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の到達度については、資料P52の教員のキャリア別到達度確認表を活用し、経験年数別に評価をしている。9月と2月の年2回、校長・教務主任と面談を実施することで、到達度と課題の確認を実施している。 ・授業研究グループは、4月から検討してきた「看護形態機能学」の授業を、県内の他学校の先生にもオンラインで授業参観してもらおう機会を計画し、準備を進めている。引き続き教育の質の向上に努めていきたい。 ・実習につまずく学生も多く、指導に苦慮しているため、コーチング力・コミュニケーション能力を高められるよう、研修の機会を設けていきたい。毎週の実習ミーティングや、毎月の教務会を活用し、教員間で困った事例について共有し、対応の振り返りをしながら、自分たちのスキルを増やしていきたい。 ・今年度から、全学年各実習終了後に、成長したこと3つを書き出し、自分の成長を見つめる機会を持つようにしている。今後も学生の自己肯定感を高められる指導方法・授業内容の検討をしていく。
6 管理運営 ・財政	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で制約がある中、学年に応じた防災訓練の工夫やオンラインを活用した消防士の講話など、学生の防災意識を高める取り組みがされてよい。 ・教員向け防災マニュアルが未整備とのことであるため、危機管理体制向上のため早急に対応された。 ・県の限られた予算の中で、改善していくことは難しいと思うが、学生の声を大切に、改善されていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は業務改善委員会を立ち上げ、防災マニュアルの整備に取り組んでいる。災害時の職員の具体的な動き、また学生の実習時の安否確認方法などの検討を行い、12月までに完成させる予定。 ・防災マニュアルの整備の中で、防災備蓄についての見直しを行い、他校の状況を参考にしながら、整備を進めていく。
7 施設設備	<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備等の老朽化については、学生の意見の吸い上げも含め計画的に予算化し、修繕に取り組みられていることで、学生・職員にとって安心できる環境提供につながっている。 ・図書室の活用では、各種取り組みがされているが、今一つ効果につながっていないという点で、ニーズの把握やさらなる利便性向上に期待したい。 ・ハード面は見た目にも重要と思います。今後建て替えなどの予定はあるのでしょうか。数年後あるようでしたら、そこをPRしたらいいのではないかと。 ・ICT環境が充実したことは大変良かったと思う。 ・コロナ禍による自宅待機の学生への教育保証や会議開催が危うい状況下において、オンラインの積極的活用は評価できる。 ・引き続き、福利厚生、施設・設備の改善に努めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休暇前の大掃除時に、学生の協力のもと全職員で、図書室・視聴覚室・倉庫などの整理を行い、図書室と視聴覚室に学習スペースを確保した。現在はパーティション等の環境を整えており、後期からは学生が使用できるよう準備を進めている。 ・建て替えの予定はないため、現在の環境の中で、学生の意見を反映した修繕・改善に少しでも向けていけるよう、引き続き検討を重ねていく。 ・ICT環境については、更なる活用の段階での疑問・課題も多く、7月より県立三学校で、岐阜県DX(デジタル・トランスフォーメーション)支援センターの支援を受け、課題に対応できる方法を模索している。
8 社会貢献 地域活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの定期更新や見やすい工夫など、学校PRに向けた努力がみられ、受験生増加の一手段として一定の効果が得られることを期待したい。 ・コロナの終息により、活動できることに期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きホームページ委員による3か月に一回の更新を実施するとともに、興味を持ってもらえる工夫を全職員で取り組んでいきたい。 ・ボランティア活動は、新カリキュラムで取り入れた、「生涯学習入門」の課題として、夏季休暇中に1年生全員が実施できた。